

聖霊降臨後第22主日（宗教改革主日）

2026年10月25日

風のよう

甘木教会

主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一



あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。

ヨハネ8：32

【説教要旨】

教会も世を生きていますから世界の変化に無縁とはいかないと思います。つい先日も世界中で広く使われているプログラミング言語「PHP」で重大な欠陥が見つかった問題で、セキュリティ対策のため幼稚園の保護者との連絡手段、コードモンが水曜日の午後から木曜日まで止まりました。日々、はやい速度で、劇的変化し、この変化を読み取り、ここに生きています。

そんな場所、時にあって私たち、キリスト者は、どう生き、世にあって光、地にあって塩として証ししていくかということが問われていると先週にお話をいたしました。

教会は、今日もこの世の変化の中で答えを探している現在進行形の中にあります。小副川牧師の筑後地区壮年会の講演で、いくつも時代に應えるために教会は方策を提案し、実行したがどれもうまくいかなかったと話されました。世にあって教会が世の光、地の塩として時代をよく把握して、世にどう応えていくかと言うことを何度も試みてきました。教会は、いつの時代にも試練に立っているということではないのでしょうか。教会の歴史をみていくとき、教会は常に試練の中に立ちつつ、主の教会として歩んできました。ルターは、イザヤ 28 章 19 節の後半の訳で、「なぜなら、試練だけが、み言葉をこころに刻ませる」とあります。試練が初めて私たちをみ言葉に、真実に耳を傾かせ、み言葉に、真実に生きるようになると言っています。そう

いう意味で宗教改革の基本である「み言葉に立つ」というところに私たちは、ますます立たされているということであり同時に恵みの場に生きているということです。

プーチンロシア大統領、習近平国家主席、トランプ・アメリカ大統領の大国の指導者が力によってすべてを力で押し切って、時代を改革していこうとしていることは、それによって、世界が滅びてしまうということさえ感じさせられます。力が信奉され、また支持されていく時代の只中であって、私たちは、どこに立って生きるかと言うことが厳しく問われています。

「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」というみ言葉のように「あなたたちは真理を知り」ということです。いわゆるこの世的な真理でなく、まことの真理、神の真理を知り、ここに立つということです。

ルターをよく理解したヘーゲルという人は、人は神の真理を前にして自分にある力、能力・・・特別なものを捨てて、神につながり、神と一つになることによってすべてから解放され、自由にされていくのであると言っています。ルターは自分の力で自分が義しいものとなるのではなく、自分を神の前に捨てて、神の恵みによって信仰を通して自分が義しい者とされることによって自由にされるのだということをいうのです。ルターがいうように「**神の乞食**」、力なき存在として神の恵みをいただき生きるとき私たちは真実に生きられるということです。ここに私たちの生き方があるということです。パウロはフィリピの信徒への手紙で「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。4:13」言っています。「わたしを強めてくださる方のお陰で、」というように罪人であるのにもかかわらず他ならない私をキリストの十字架によって赦してくださった神の義によって、お陰で、恵みによって、私たちは「わたしにはすべてが可能です」となるということです。私たちがすべてにおいて可能とされるのは世の力だとおもっている、違うのです。神の真理であり、ヨハネのいう真理＝愛、神の恵みである。真実に世が終わりの姿を見せる今だからこそ、教会はここにもう一度、

立つことを求められているのではないのでしょうか。

宗教改革の発端となったルターの95ヶ条のテーゼの初め「私たちの主であり、師であるイエス・キリストが、『あなたがたは悔い改めなさい・・・』と言われたとき、彼らは信じる者の生涯が悔い改めであることを欲したもうたのである」と始めます。私たちは「悔い改め」、まさに私たちの方向を人の力でなく、真理＝神の愛、すなわち神の力、神の義に自分自身を強く向けることから、世の終わりを予感させる現代の激変する世界に「我ここ立つ」という不動、ここに自由とされていくのです。

ルターは自由について「キリスト者は信仰によって自分自身をこえて神の中に至り、愛によって再び神から出て自分自身の下にまで至り、しかも常に神と神の愛とのうちにとどまりつづける。・・・見よ、これこそ真の霊的なキリスト者の自由であって、あらゆる・・・開放するものである。・・・他のすべての自由にまさる自由なのである。」

社会の抱えている課題は山積しています。世界の終わりを感ぜさせられる激動の荒波の中で私たちの小さな舟は行くことも帰ることもできないように見えます。しかし、力によって荒波から無事に逃れようとするのではなく、荒波に見るでしょうが、荒波は私たちを飲む込むことができません。ここにイエス・キリストはいます。キリストを見るのです。キリストを信じるのです。ここにすべてが可能となる世界があるのです。

パウロの「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。」という出来事が生まれてきます。

ルターが、宗教改革の日々の中で、悔い改め、ひたすら神のキリストの恵み、愛を信じた一点突破して、彼の語る言葉が、行動が時代に変化をもたらして近代へと道を拓いてように、私たちもルターのようにひたすら神のキリストの恵み、愛を信じた一点突破、今の時代を生かされていくことです。

「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」というみ言葉の前に今の時代だからこそ、常に自分をここに立たせていきましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



柴田愛子さんから「愛子さんの　なんか変だな？」

（暮らしの手帳）が送られてきました。

今の時代だからこそ、次の言葉を聞いていくことが大切だと思います。「そうだ」と気づかされました。

「大人も子どもも『変』を持ち続けてほしいです。思い続けていれば、なにが『変』なのか分かってきます。分かると、それを変えようとする力が湧いてくる。そうはいっても、なんでもかんでも『変』だと思いながら生きていられないし、今の場所にできるだけなじんで居心地良くいきたいと思うのも当然のこと。その場に身を委ねることも、生きる手です。でもそこで、変だと感じる自分を否定したり、切り捨てたりしないほしいんです。そうしていると、自分がどんどん見えなくなります。『変』を捨てるって、自分を売っちゃうことですから。」

自分を安売りせず社会の「変」と思うことに向かい合って、悪戦苦闘するのが信仰者、教会人の生き方ではないだろうかと思う。

園長・瞑想？迷走記。



今、色々な法律を作って、教育分野は急激に締め付けが始まったように思える。一方、現場は子どもたちの持つ多くの課題と取り組みながら悪戦苦闘している。どうこの現実を受け止め対処していこうかと悩む。

今の社会のシステムに乗ってやればやるほど、経営的に良いが、自分が信じているイエス・キリストが教えてくださっている教育・保育とは違ってくると増々、思っている。

じゃあ、自分が思ったような教育・保育をすればよいと思うが、気づくに余りも遅く、歳を取り過ぎたという気持ちがある。もっと、若い時に気づかなかったのか。しかし、いまさら嘆いて地団駄踏んでも潔くない。

キリスト教徒として自分らしく、自分を生きていこうと暗中模索というのが正直の自分の姿かもしれない。迷走し続けていこう。

日毎の糧



聖書：神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。わたしたち
は決して恐れない。 詩篇46：2～3（新共同訳）



ルターの言葉から

剣は何の忠告も助力も出来ず、またすべきでなく、神のみ
があらゆる人の思い煩いと関与を超えて働かれるにちがいあり
ません。

それゆえ、ここでは最もかたく信じる人が、最も強く守られ
ます。

選帝侯フリードリヒ公への手紙

『慰めと励ましの言葉 マルティン・ルターによる一日一生』湯川郁子訳

徳善義和監修 教文館

私たちルーテル教会にとって馴染み深い詩編である。ルターの
コラール「神はわがやぐら（教団讃美歌267）」として、宗教
改革の歌として宗教改革記念日、ルーテル教会の記念日度に、た
とえば、牧師の按手式の記念日で歌われる。曲はメンデルスゾー
ン交響曲第5番・宗教改革に使われている。ルターのコラールが
示すように**神への信頼**の詩編である。

「その主題は神の都エルサレムではない。信頼を支える根拠は「
神います」という生ける神の臨在である。それは心情的興奮の事
柄ではない。」①

「神はわたしの砦」という「砦」は、「力」とも訳せる。それ
は神を表現する時に表す言葉である。なによりも大切な言葉
は、「必ずそこにいまして」と言う言葉である。それはこうと
も訳せる。「神は見出される/確かに自らを表す」とも訳せる。
苦難の時、私たちは一人でなく、神は自らを表す方であり、同
時に私たちは神を見いだせるのである。苦難は神のいない世界
であるが同時に神は苦難の中で隠れているのである。そして私
たちを助け、恐れを取り除かれる救いの出来事が起こるのであ
る。神の真実を受け入れる時、最も強く守られるのである。

①「詩編研究」

左近淑

新教出版

祈り：苦難のとき、私たちを見いだし、恐れを乗り越える力く
ださる神を強く信頼する心を与えて下さい。アーメン。

甘木通信

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。

コヘレト12章1節

「さいふ」



お腹の中（腹腔内）に専用の透析液を入れ、自分のお腹にある「腹膜」という生体のフィルターを利用して血液を浄化する方法の腹膜透析をされていたAさんが、私の誕生日を覚えてくださり、財布をプレゼントしてくださった。使いやすい財布で使っていたがチャックの部分が壊れたが、どうしても捨てきれずにいつも感謝の気持ちで財布を持ちつづけている。

ある日、お母さんが教会を訪ねて来てくださった。「娘が洗礼を受けたいと言っています。静岡東洋英和女学院高校に通っている時、いつもバスの車窓から小鹿教会を見ていました。今、また教会を思い出し、ここで洗礼を受けたいという気持ちになったというので来ました」と。

その当時、体も相当、弱られていていました。腹膜透析は感染に注意しなければいけないので、教会の礼拝堂で洗礼をしたのか、ご自宅で行ったのか今は記憶がない。み言葉をもって、出来るだけで家を訪問し、祈った。

今も小鹿教会を思い出すとき、車窓から教会の姿を見ていた彼女を想像する。きっと、夢を一杯に持っていたはずだ。その姿は「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。」ということではなかったかと思う。洗礼後、しばらくして天に帰られた。青春の時代に学校に通う度に見ていた教会からお送りできたことは嬉しいかぎりだった。

（甘木日記）土）東京から帰省。疲れた。久留米から甘木の夜の40分の運転は出来ず。日）早朝に甘木へ。主日の準備、庭の掃除。礼拝後、みんな帰られた後、目が閉じる。月）愛子先生から本が送られてきた。一気に読む。火）幼稚園の事務作業。クラスから飛び出ている子どもと付き合うが体力が抜けていく。老いた。水）Y牧師に昔は平気だったのに疲れると愚痴る。いつまでも昔のままじゃありませんと。（笑）木）松崎保育園、甘木教会へ。少し春の花の用意。金）幼稚園は台風に備えて準備。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）羽村幼稚園の理事会、評議員会を終えて、夜に福岡に着く。電車で福岡から久留米、車中で3人の若い女子が楽しく筑後弁で話している日常の出来事が微笑ましく感じる。一時間の車中であつたが、筑後弁の話はほんのりとして癒される。（笑）といえ、久留米から甘木に行くには50分ぐらいかかり、（園児らと第2園庭の聖別の祈り）夜の運転は気乗りせず。日）早朝に甘木に向かい週報などの印刷、掃除、礼拝1時間前に準備完了。午後、信徒さんが帰られて昼食後、いつの間にか昼寝。日が沈む前に久留米に帰る。目が薄くなった。当り前のように「目が薄くなる」と使うが、方言だと気づいていたがそのようだ。月）日常が始まる。理事会、評議員会の事務作業を始める。議事録の荒原稿、手続きなど次々にしていく。東京と福岡の距離で昔は出来なかったがWEB環境が整えられ距離を縮める。愛子先生から「愛子さんの なんか変だな？」が送られて来て、いっきに読む。反省し、慰められ、勇気づけられるの繰り返しだった。火）園庭をそろそろ冬、春を見て、花を整えていかなければと思う。このときYouTubeが助けになる。花壇は土づくりをしなくてはいけない。11月の予定表の原稿を作成し、保育園、代議員、主管牧師に送る。水）今日の子ども礼拝に教会の方が2名参加してください。「喜ぶ者とともに喜び、泣く者と共に泣く。」教会の人が子どもを見守ってくださり感謝でいっぱいとなり、嬉しくなる。大森のとき、よくYさんが幼稚園の礼拝にでてくださった。Yさんはもうここにはいない。先生方が配慮くださり、誕生日会に出られない子どもの為に礼拝後、誕生会をしてくださった。行事に振り回されることなく一人一人が大切にされていて欲しい。礼拝と誕生会の間は激しい雨が降る。木）松崎保育園の職員の聖書の学び、ヨナ書と今月の聖句の話。金魚草と一年、金魚草を見せながら、喜びと悲しみを一緒にしたことを話す。25日の宗教改革日記念日の昼食会の準備の為にコストコに何年ぶりかに行く。楽しくなるが時間がなく甘木教会へ。園庭開放していると卒園生の親子、旧職員の親子の二組が来て、遊んでいる。園庭はやはり子どもがいて初めて生き生きしていく。そんな横で気魚草、アリッサムを植え、一度も思うように芽を出してくれない、蓮華の種蒔き、紫蘇の抜き、その実をとり、木の下に置いていたポインセチアを部屋に入れて、「短日処理」を開始する。常時、教会に住んでいないので適当に陽射しがあり、暗くなるところに置く。果たしてどうなるか。宗教改革記念日、全聖徒の日、収穫感謝祭り、クリスマスと続く。Iちゃんが帰省し、おじいちゃんの病院を訪問。さて、孫はわざわざ帰省して訪ねてくれるだろうか。元気で活躍中。水曜日から使えなくなったWEBも回復するが何が何かわからない。金）秋の遠足、体が重く、留守番。だんだんと体力がなくなり配慮いただく。台風に備えて、保護者との連絡、給食の有無の手配など一番苦手の作業。

